

ピンナガマグロ



マグロも土佐の魚です！

～マグロ漁業の現状とこれから～

高知県海洋局

か つ お 通 信

内海丸の
丸島久保田
市丸久保田
高知県久保田
高知市丸島
発行人久保田
編集人海平
定価無

高知といえばやはり「カツオ」が有名ですが、漁獲量の多さや、本県の近代漁業を牽引してきたマグロ漁業の役割などからみても、「マグロ」も立派な高知を代表する魚です。

一方、世界で漁獲される生鮮用マグロの9割を日本人にとっても、また世界的なビジネスの商材としても、最も重要な魚種の一つと言えます。

今回は、マグロを取り巻く世界的な動きを始め、マグロにまつわる様々な話題をご紹介します。

■マグロ漁業の現状

世界のマグロ類の漁獲量は1970年以降急速に増大を続け、4百万トンを超えています。（※世界の総漁獲量は1億3千万トン）これは、韓国や台湾の隻数の増加と小さい魚まで一網打尽に漁獲する「まき網漁業」の発達によるものです。（※本県船の操業方法は、魚体選択性の高い「え縄漁法」）

一方、日本の漁獲量は、中国や台湾などの台頭による競争激化により80年代後半以降減少傾向で推移しています。特に本県では、FAO（国連食糧農業機関）の勧告を受け平成11年に実施した19船にもとよる国際協調減船により、大量の離職者の発生など地域経済に大きな損失を被っています。

しかし、台湾や中国はこの勧告を履行せず、逆に操業隻数しかも漁獲効率の高いまき網船を増加させており、果してもその是正を強く国に要望しています。

■マルシップ制度

マグロ漁業では、経費の1/3を占める人件費が経営を圧迫しています。既に比較的賃金の安い外国人船員を雇用していますが、法律等によりその人数は制限されています。

最近では更なる人件費圧縮のため、マグロ漁業の経営体が漁船を海外の会社等に貸し出し、この会社等が外国人乗組員を多数乗船させ、漁船を貸し出した経営体が乗組員を含めて自船を用船する「マルシップ制度」が導入されています。

■操業方法

遠洋・近海マグロはえ縄漁業2百〜3百トンの漁船に、20人ほどが乗り組み、大西洋やインド洋など世界各地の漁場を10カ月〜1年以上上操業します。漁具は長さ100km以上の幹縄に2千本以上の釣り針が付いており、これにイワシ、アジ、イカを餌として掛け、1日1回の投縄と揚縄を繰り返します。

■沿岸マグロはえ縄漁業

19トンの漁船に、8人ほどが乗り組み、フィリピン近海から東北沖までの日本周辺の漁場を10日〜1カ月周期で操業を繰り返します。漁具の規模は遠洋・近海の半分程度。遠洋近海船は漁獲したマグロを冷凍するのに対し、沿岸船は主に生で出荷します。マグロは魚体が大いいために氷温下で1カ月近く鮮度を保つことが出来ます。

■明るい話題も

厳しい状況が続くマグロ漁業ですが、逆にチャンスと捉えて新たに着業される方もおられます。高知市種崎で鉄工所を経営する中山さんは、10年ほど前までマグロ漁業を経営されていましたが、一旦は撤退したものの、今後のマグロ業界を独自に分析され、「いける！」との手応えを掴んだようです。

■マグロ魚価向上

中山さんの分析にもあったが、先月も大手商社の話として国際市場でマグロが確保し難くなり価格が高騰していると報道されました。日本は水産物需要の40%を輸入に頼っており、近い将来マグロに限らず多くの魚種で輸入を確保できない事態も予想されており、魚価向上が期待される。この恩恵を享受するためにも、本県の経営体が厳しい競争に生き残る取組みが必要である。



新たにマグロ業界に参入する第58寿々丸

漁協合併を推進しましょう

● 購買は漁協を利用しましょう

● 預金、公共料金は信漁連へ

漁業経営のことなら、今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！



- 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
- 上原アドバイザー tel 090-1570-4904

【編集後記】朝食抜きの子供が多い中、毎日朝食を欠かさず作るお父さん。得意料理の一つはキュウリとツナのおかず。息子からは「またこれかよ〜」と朝からキツ〜イ言。なお、怖い妻に脅されて毎朝作っているのではありませんので、念のため(T_T)